

## 分析結果の要約

### ◆全国学力・学習状況調査◆

#### 【分析1】調査の概要及び調査結果の分析

- 小学校は、全ての教科において、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 中学校は、数学Bにおいて、全国平均を下回っている（その他は同程度）。

#### 【分析2】質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連

- ① 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連
  - 中学校は、全ての教科において、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する質問事項における回答状況別の教科調査の平均正答率のうち、「当てはまる」と回答した生徒と「当てはまらない」と回答した生徒の平均正答率の差が、10ポイント以上ある。
- ② 生活習慣・学習習慣に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連
  - 小学校、中学校共に、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」、「家で、学校の宿題をしていますか」の質問事項で、「している」と回答した児童生徒が、全ての教科において平均正答率が最も高い。
  - 小学校国語B、算数B共に、「家で、学校の宿題をしていますか」の質問項目で、「している」と回答した児童と、「全く」と回答した児童の平均正答率の差が30ポイント以上あり、差が大きい。
- ③ 読書に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連
  - 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問事項では、小学校は「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童が、全ての教科において平均正答率が最も高い。中学校は「10分以上、30分より少ない」と回答した生徒が、全ての教科において平均正答率が最も高い。

### ◆「基礎・基本」定着状況調査 質問紙調査◆

#### 【分析1】調査の概要及び調査結果の分析

- 中学校においては、生徒質問紙「教科の学習に関する調査」及び学校質問紙「教科の指導に関する調査」共に、平成14年度と平成30年度の肯定的回答の差が10ポイント以上である。

#### 【分析2】質問紙調査の回答状況

- ① 「課題発見・解決学習」に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と学校質問紙調査の回答状況との関連
  - 「課題発見・解決学習」に関する全ての質問事項において、学校が、指導の工夫について「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と肯定的に回答している割合よりも、児童生徒が肯定的に回答している割合は低い。
- ② 児童生徒質問紙調査における自己実現力・自己効力感に関する質問事項の回答状況とその他の質問事項の回答状況との関連
  - 児童生徒質問紙調査の自己実現力・自己効力感に関する全ての質問事項において、「よく当てはまる」と回答している児童生徒は、「全く当てはまらない」と回答している児童生徒に比べて、学習や社会への関心等に関する質問事項の肯定的回答の割合が高い傾向が見られる。特に、小学校、中学校共に(11)「将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています。」の肯定的回答の割合の差が大きい傾向がみられる。
  - (44)「努力すれば、自分もたいていのことはできると思います。」に「よく当てはまる」と回答している児童生徒は、「全く当てはまらない」と回答している児童生徒に比べて、肯定的回答の割合の差が30ポイント以上ある項目が多い。
- ③ 学校質問紙調査の回答状況と児童生徒質問紙調査の回答状況との関連
  - 小学校では、全ての学校の算数において、具体的なめあてを示したり、解決の見通しをもたせたりするなどの指導の工夫を行っており、「算数の授業はよく分かります。」に肯定的に回答している児童の割合が80%を超えている。
  - 小学校、中学校共に、理科では、「理科の勉強は好きです。」と「理科の授業はよく分かります。」の二つの質問事項に肯定的に回答している児童生徒の割合の差が大きい学校質問紙調査の質問事項のうち、「(7)観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識させる指導を行った。」の項目が共通している。